

2025年4月24日

通貨ニュース

インドネシア:4月金融政策会合～IDR安を前に身動きを縛られるBI～

インドネシア銀行(中央銀行、BI)は4月22～23日に開催した金融政策会合で、政策金利のBIレートを従来の5.75%で据え置いた(図表1)。上限金利の翌日物貸出ファシリティ金利と下限金利の翌日物預金ファシリティ金利も、それぞれ6.50%、5.00%で維持されている。1月会合ではサプライズで利下げ再開に動いたが、2月会合以降は3会合連続で様子見姿勢を維持している。なお、ブルームバーグ集計の事前予想では調査対象者のほぼ全員が据え置きを予想していた。

声明文およびペリーBI 総裁の会見では、IDRの安定化やインフレ情勢、米国の関税政策によるグローバルな不確実性への言及などが目立った。BIは米国の相互関税を受けて世界経済の不確実性が高まったと述べた。一方、IDRの動きに関しては「アンダーコントロール」「貿易パートナー国の通貨と比較し安定的」と表現している。IDRは4月7日に1998年のアジア通貨危機の安値を更新し、17224と史上最安値をつけた。BIは通貨防衛のため為替介入実施を発表し、その後IDRは16800台で安定推移している(図表2)。BIは引き続きIDR安定化への強い姿勢を示している。

物価動向を見ると、直近公表の3月消費者物価指数(CPI)は+1.03%(前年比、以下同様)と2月の▲0.09%のマイナスの伸び率からプラスに転じたが、市場予想の+1.20%を下回った(図表3)。引き続きBIのインフレ目標(+1.5～+3.5%)の下限を下回って推移している。1月と2月は電力補助金の影響が大きかったが、3月は電気料金に反発がみられる。変動の激しい食料品価格と政府の統制価格を除くコアCPIについては、+2.48%と2月から横ばいとなり、インフレ目標の中央値(+2.5%)とほぼ一致している。基調的物価の伸びの水準は依然低いとはいえ、足許では緩やかに加速していると考えべきだ。かかる中BIは、インフレは引き続き低水準であり「2025年および2026年にかけてインフレ率を目標圏内に抑制する努力を約束する」と自信を示している。

最新の経済動向に関して、消費者信頼感や製造業PMIなどは若干頭打ち感も見られるが、急速な悪化は確認されていない(図表4)。もともと、BIは2025年の成長率見通しを+4.7～5.5%の中間点をやや下回ると述べ、若干景気認識を弱めた。インドネシアの1～3月期経済成長率は良好だとの見解を示すも、米国の相互関税や中国の報復関税はインドネシアの経済成長に影響する可能性にも言及した。そのうえで、「経済成長を支える必要がある」とし、景気を下支える意向を示している。

以上を踏まえペリー総裁は、今回の据え置き決定は「物価目標への努力、IDRの安定維持、および経済成長を支える必要性と一致する」と理由を説明した。先行きに関してペリー総裁は、短期的な優先事項はIDRの安定化であるとした。IDR安定が維持されれば利下げ余地が広がり、今後の金融政策について

国際為替部

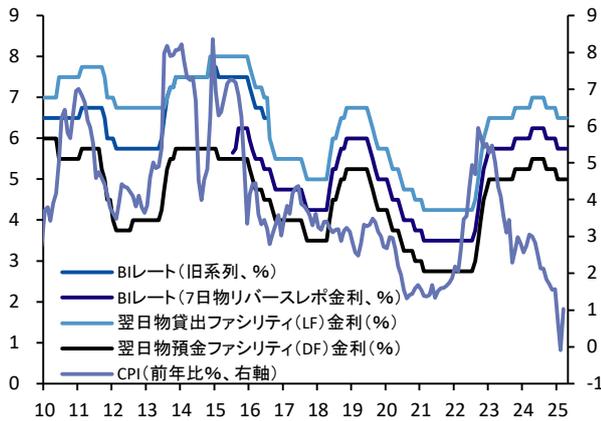
大島 由喜

03-3242-7065

yuki.ooshima@mizuho-bk.co.jp

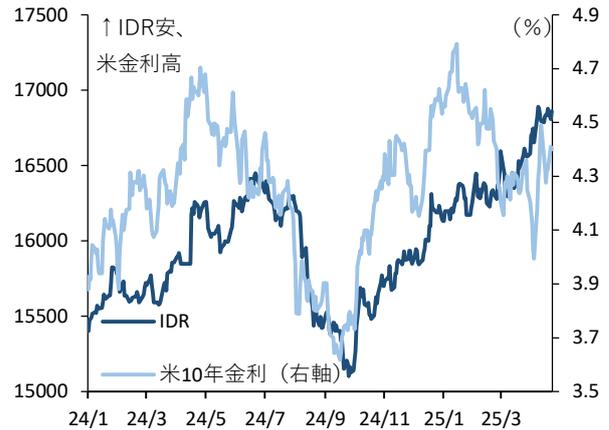
決定できると述べた。半年程度のスパンで考えれば利下げが再開される可能性が高いと考えるものの、そのタイミングは結局為替と米金融政策動向次第だろう。経済・物価情勢はここ数か月大きな局面変化を見せておらず、利下げ再開の主因にはなりにくい実情がある。FRBがBIの想定通りに年内2回の利下げを実施し、尚且つIDR安が回避されるのであれば、2025年半ば以降▲25bpの利下げが2回行われ、年末までに政策金利が5.25%程度まで引き下げられるとの従前予想を維持したい。

図表 1: 政策金利と消費者物価指数(CPI)の推移



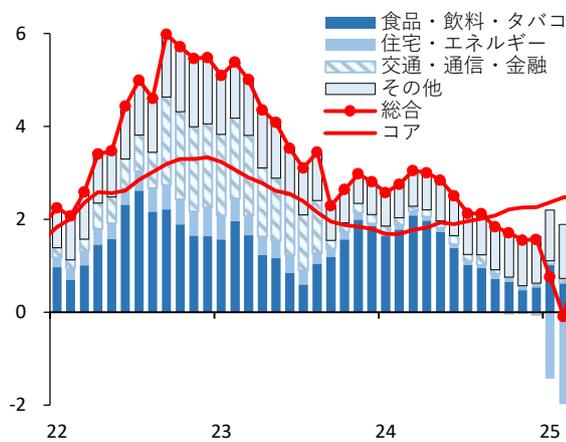
出所: インドネシア銀行、ブルームバーグ、みずほ銀行

図表 2: IDR相場と米金利の動向



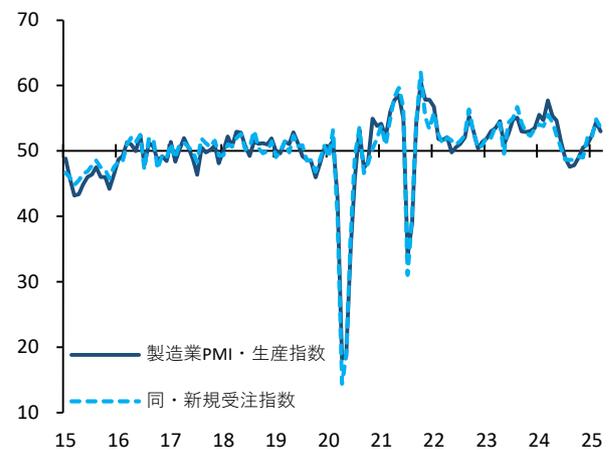
出所: ブルームバーグ、みずほ銀行

図表 3: 消費者物価の動向 (前年比%, %ポイント)



出所: Macrobond、みずほ銀行

図表 4: 製造業 PMI の推移 (中立水準=50)



出所: S&P Global、みずほ銀行

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。なお、当行は本情報を無償でのみ提供しております。当行からの無償の情報提供を望まれない場合、配信停止を希望する旨をお申し出ください。